障害連シンポジウム2021（オンライン）

図形

低い精度で自動的に生成された説明谷間の住人～日本の谷底で社会モデルを叫ぶ～

日時：10月9日（土）13:30-16:30

開催形式：Ｚｏｏｍによるオンライン開催

情報保障：手話通訳・要約筆記

|  |
| --- |
| 参加方法：こちらGoogleフォーム（<https://forms.gle/4JnMeUQ7cNuvFjwY9>）からお申し込みください。開催日2日前までにzoomのURLをお送りします。 |

●内容

第1部シンポジウム

【講演】

白井誠一朗（障害連）

【パネルディスカッション】

西田えみ子（障害連）

池崎悠

尾下葉子

【指定発言】

尾上浩二（ＤＰＩ日本会議）

古賀典夫（「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム）

第２部コロナアンケート報告

尾上裕亮（障害連）

●趣旨

国連障害者権利条約では、障害の捉え方を「医学（個人）モデル」から「社会モデル」

「人権モデル」へと転換している。日本では難病をもつ人たちの中には、医学的診断がは

っきりしないことによって、福祉サービスを受けられない人たちも少なくない。精神障害

や知的障害などの人にも同じ問題を抱えている人たちがいる。

日本の法体系はほとんど社会モデルを採用せず、その代表格は、医学モデルを前面に押

し出す手帳制度や、福祉サービスを給付する障害者総合支援法である。ニーズがあって

も、制度の谷間に置かれサービスを受けられない障害者は多い。制度の谷間問題を解決す

るには、権利条約が示すように、社会モデル・人権モデルの考え方のはずであるが…。

**（のをする）**

[**shogairen@infoseek.jp**](mailto:shogairen@infoseek.jp)

**お問い合わせ**